

1年生合同バンド

●ブラジリアン・ポートレート

A Brazilian Portrait

河野土洋

Kunihiro Kawano (b.1941: 日本)

全日本吹奏楽コンクールでは、毎年4～5曲の課題曲が作曲されており、本作は1998年度課題曲Ⅳとして発表された。課題曲としては異例の「サンバ」で驚かれたが、メロディと伴奏、リズムという基本的な要素で構成されており、大変親しみやすい曲である。中間部のスローワルツは、踊り疲れた身体を癒やすような、ブラジルの夕闇迫る海岸の風景が連想される。

●たなばた

The Seventh Night of July

酒井 格

Itaru Sakai (b.1970: 日本)

酒井格さんは吹奏楽界でも人気の若手作曲家。この曲は酒井さんが作曲を本格的に学ぶ前、高校3年のときに独学で書き上げた最初の吹奏楽曲。オランダのDe Haske(デハスケ)社から出版されたが、海外ではタイトルの「*The Seventh Night of July*」とは何のことだ?、となるため、スコア解説では日本の七夕(たなばた)の伝説について触れられている。しかし、実際には七夕の特定の情景を描写したものではないため、純粹に音楽としてお楽しみいただければと思う。中間部の美しいメロディは印象的で、学生バンドにも人気が高い曲。1988年作曲。

●「魔女の宅急便」セレクション

Selections from "Kiki's Delivery Service"

久石 譲 (編曲: 森田一浩)

Joe Hisaishi (b.1950: 日本)

1989年公開、宮崎駿監督、スタジオジブリ制作の長編アニメ映画「魔女の宅急便」は、13才の魔女の少女キキが、親元を離れて1人で修行に出かけ、さまざまな出来事に遭遇しながら成長していく物語。まずは住む街を探し、仕事を見つけて自立しなければならない。ホウキで空を飛ぶ魔法しか使えないキキは、その力を使って宅急便の仕事を始めることを思いつく。

宮崎作品には欠かせない久石譲の音楽が、幻想的な情景を見事に描き出している。本作は①海の見える街、②仕事はじめ、③傷心のキキ、④突風、⑤旅立ち、を組曲にしたものである。第4曲「突風」は、映画構想時のイメージアルバム収録曲で、本編では使われていないが、ホウキに乗って空を飛ぶキキが嵐に巻き込まれ、翻弄される場面が想像される。2009年出版。

●水上都市「ヴェネツィア」 - アドリア海の女王 -

The Floating City "Venezia" - The Queen on the Adriatic -

八木澤教司

Satoshi Yagisawa (b.1975: 日本)

八木澤教司さんは市川市在住の若手作曲家で、ジョイント参加各校の顧問とも親交があり、この演奏会においては、13年前(2003年)の第13回より毎年、1年バンドで八木澤作品を演奏している。近年は海外でも八木澤作品の人气が高まり、世界を飛び回る八木澤さんであるが、(先日までシカゴ、年末はスイス!)、今回の練習期間にも多忙な仕事の合間に練習会場にお越しになり、1年バンドの部員たちは作曲者から直接指導を受けるという貴重な体験をした。

この曲は八木澤さんが憧れる音楽家ガブリエリの出身地、かつ八木澤さんが大好きな街であるアドリア海に浮かぶ水上都市：ヴェネツィアをテーマにしている。過去に何度も訪問し、その中で得られた印象を元に「水面に反射する太陽の光のような」明るい吹奏楽曲に仕上げたとのこと。今年3月に世界初演が行われたばかりの新作で、楽譜は未出版であるが、八木澤さんのご厚意により今回の演奏が実現した。美しく感動的なフィナーレにご期待下さい!

2年生合同バンド

●パガニーニ・ロスト・イン・ウインド

Paganini Lost in Wind

長生 淳

Jun Nagao (b.1964:日本)

この曲は当初、超絶技巧のバイオリン奏者として知られた、19世紀の音楽家パガニーニの無伴奏のバイオリン独奏曲「24のカプリス」の終曲(第24番)の主題を使って、2本のアルトサクソとピアノのために書かれた(2008年作曲)。ただし、この主題は見つけにくい形で象徴的に組み込まれており、今回演奏する吹奏楽版でも同様である。吹奏楽は編成的に楽器の種類も多いことから、各パートに等しく活躍する機会を設け、高い演奏技術も要求される曲になった。全体として大きなうねりと、長い持続を印象づける構成の曲である。2011年編曲。

●いにしえの時から

From Acent Times

ヤン・ヴァンデルロースト

Jan Van der Roost (b.1956:ベルギー)

ヴァンデルローストは母国ベルギーのレメンズ音楽院で教鞭をとる傍ら、ブラスバンド曲(金管楽器+打楽器)や、吹奏楽曲を数多く手掛けており、人気の高い作曲家である。本作は2009年に開催された、ヨーロッパのコンテスト課題曲として作曲されたブラスバンド曲であるが、出版社の提示する難易度は最高ランクの「グレード6」。これがコンテスト課題曲かと驚愕の難曲である。翌年には、作曲者自身の手により吹奏楽版も作られたのだが、これまた「あまりに難しすぎる曲になる」と、作業が一時中断する場面もあったとも伝えられている。

2つ以上の旋律を同時に重ねる「ポリフォニー」と呼ばれる形式がある。15世紀~16世紀にポリフォニーを駆使して黄金時代を築いた「フランドル楽派」と呼ばれるベルギーの作曲家たちの音楽に脚光を当てた曲である。しかし、単なる形式の模倣ではなく、あくまで21世紀の現代音楽の一技法として「ポリフォニー」が活かされている。演奏者にとっては手強い曲だが、間違いなく名曲と言えよう。終盤に現れる大変美しく感動的なメロディにも注目して欲しい。

●ミス・サイゴン

Miss Saigon a Symphonic Portrait

C.M.シェーンベルク(編曲:J.デメイ)

Claude-Miche Schönberg

日本でも大人気のミュージカル「ミス・サイゴン」は、ベトナム戦争末期の1975年、陥落寸前のサイゴン[南ベトナム首都]を舞台に、ベトナム人少女キムと、米兵クリスの恋物語を描いたものである。しかしサイゴン陥落による大混乱で2人は引き裂かれ、悲しい運命をたどる。1989年にロンドンで初演が行われ、1991年:アメリカ(ブロードウェイ)、1992年:日本にも上陸して熱狂的に迎えられた。日本では何度も公演が行われており、今年も秋に東京の帝国劇場で上演されていた(今回指揮するY先生も舞台を観て感動して選曲したようです!)

今回演奏する吹奏楽版はデメイ編曲のもので、ミュージカル音楽から6つのシーンが抜粋されている。どの曲も大変素晴らしく、物語を知らなくても十分に楽しめるメドレーである。

(I) Overture-Saigon, April 1, 1975

(II) The Movie in My Mind

(III) The Morning of the Dragon

(IV) Please

(V) Appassionato

(VI) I Still Believe

序曲 - サイゴン1975年4月1日

我が心の夢

サイゴン陥落

プリーズ

アパシオナート(情熱的に)

今も信じてるわ

邦題は

自信ありません

